

不妊治療を目的に来院された患者の意識調査 ～アンケートを実施して～

医療法人 三慧会 IVF なんばクリニック ○島 千怜 中川 優子

I. 諸言

実際に不妊治療を目的に外来を訪れる患者が、どの程度不妊に対する知識を有しているのかは明らかではない。

今回、不妊で悩み、当クリニックを受診した患者の不妊についての知識・理解度を調査することを目的に、不妊に対するアンケート調査を行った。

II. 対象・方法

平成 25 年 6 月～7 月に当クリニックを初診した 25 歳以上の既婚男女を対象に、独自に作成した質問票を用いて、初診時の受診状況・不妊に対する情報収集の有無とその手段・不妊の定義と頻度・原因の男女別割合について、自己回答式アンケート調査を施行した。アンケートは無記名で匿名性を保持し個人情報に配慮した。

III. 結果

男性 141 名・女性 291 名から回答を得た。年齢は、20 歳代が男性の 12.8%、女性の 11.0%、30 歳代が男性の 50.3%、女性の 62.2%、40 歳代が男性の 36.2%、女性の 26.4%を占めた。不妊期間の中央値は男女共に 24 ヶ月であった。男性の 61.4%、女性の 69.2%が他院での受診歴を有していた。「初診時の診察は誰が受ける事が望ましいか」という質問に対して、男性 80.7%、女性 74.7%が夫婦ともに受診することが望ましいと回答した。しかし、希望通り夫婦で受診されたのは男性の 64.2%、女性の 42.7%と低い傾向にあった。この理由として夫婦のどちらかが仕事の都合で一緒に来院出来なかったという要因が大半を占めていた。「これまでに不妊治療についての情報収集をしたことがある」と答えたのは、男性 57%、女性 81%であった。情報収集の手段（複数回答可）については男性の 83.8%がインターネットと回答したのに対して、女性ではインターネット 44.9%、本 39.7%であった。不妊期間の定義を 2 年間と回答したのは男性 28.4%、女性 50.6%で、男性の約半数が 1 年以下と回答した。不妊カップルの割合について、8 組に 1 組と回答したのは男性の 39.6%、女性の 45.4%であった。不妊原因のうち男性因子が 50%程度あると回答したのは男性の 56.7%・女性の 48.7%であった。

IV. 考察

不妊治療は夫婦で共に行なうことが大切であり、患者自身もそれを自覚している。しかし、実際に夫婦共に受診された割合が低かった事から不妊治療を目的にクリニックを受診出来る環境が未だ整っていないことが示唆される。

不妊治療に対する情報収集について、これまで情報収集をした割合は女性に比べて男性で低かった。また不妊期間・割合についても男性はやや知識が乏しい結果であったことから男性の不妊に対する意識の低さも考えられる。

V. 今後の課題

正しい情報や知識を女性だけではなく男性にも啓発できるようクリニックのホームページなどを改良・発信し、男性の不妊に対する意識を上げると共に夫婦で受診可能な環境整備が必要であると考えられる。